

第2章

Claude Desktopの拡張機能「Filesystem」で
手軽に効果を体験する

実験…MCPサーバを使って AIにファイル操作をさせる

佐藤 聖

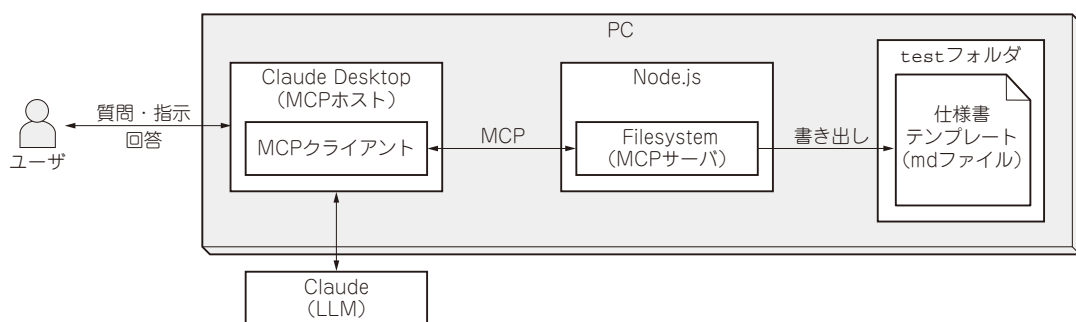


図1 今回の実験におけるAIエージェントの構成

MCPサーバを利用する方法は幾つかあります。商用のリモートMCPサーバを使ったり、ローカル環境で拡張機能として動作するMCPサーバを利用したりすることが可能です。また、コミュニティが提供しているリモートMCPサーバを活用する方法や、自分でリモートやローカルにMCPサーバを開発する方法もあります。

手軽にMCPの効果を確認したい場合は、MCPを提唱したAnthropicのClaude Desktopを利用するのがお勧めです。Claudeの有料プランであるClaude Pro以上のサブスクリプションが必要になりますが、Claude Desktopの拡張機能を使えば、ローカルPC上のファイル・システムや外部ツールにアクセスするためのMCPサーバを数分でセットアップできます。

実験で使うローカルMCPサーバ

● Claude Desktopの拡張機能「Filesystem」

Claude DesktopのローカルMCPサーバは、拡張機能として提供されています。今回はその中でも、Filesystemという拡張機能を使ってみます。

Filesystemを有効にすると、ClaudeはユーザーのOS上にあるXXX.txtやXXX.csvといったテキスト形式のファイルに直接アクセスできるようになります。これにより、Claudeで次のことがローカルで安全に

できるようになります。

- ファイルの読み込み・要約
大量のテキスト・ファイルをAIエージェントの入力として参照し、内容を理解・要約する
- 編集・整理
ユーザーの指示に基づいてファイルを編集したり、内容を整理したりする操作を実行する
- 出力の保存
AIエージェントが生成した回答やコードなどの出力結果を直接ファイルに保存する

この機能により、ClaudeはPC内の作業コンテキスト（文脈）を理解し、質問や指示に基づいた実用的なファイル操作を実行できるようになります。今回は、Claude Desktopを使って仕様書テンプレートを作らせてみる実験を行います。実験の構成を図1に示します。

● 環境構築の手順

▶ (1) Claude Desktopのインストール

図2に示す公式ページからClaude Desktopのインストーラをダウンロードして、実行します。

<https://claude.ai/download>

Windowsにインストールするときは、管理者権限が必要になる場合があります。

▶ (2) 拡張機能の参照

Filesystemは、Claude Desktopのインストール後に、